



を開催しました！

市では、マガンの飛来地である宮城県大崎市、トキの野生復帰を進める新潟県佐渡市と共に、それぞれの取組みの中核を担う“田んぼ”をテーマに「農業の未来」や「自分たちの未来」について考え、行動するきっかけとするため、8月9日に東京でシンポジウムを開催しました。
 《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

●不思議の大地「田んぼ」を考える

悠久のときを受け継がれてきた田んぼ。水田稲作は、お米という大切な食糧の生産の場であるだけでなく、水の共同利用を通じて人をつなぎ、地域をつなぎ、たくさんの生きものの命をもつなく魔法の空間でした。しかし、生産性の向上を追い求める過程で水の流れは分断され、生きものの姿は消え、人のつながりも希薄になりました。田んぼが「お米の生産工場」に変わってしまってから、いったいどれくらいの時が流れたでしょう…。

今日の時間割		8月9日(月)
はじめの会 13:10～13:30	映画『田んぼ』Short ver. 上映 世界初!! 田んぼをテーマとした映画。そこには懐かしい風景があります…	
1時間目【音楽】 13:30～13:45	わらわ座「響(ひびき)」先生 田んぼの文化「田楽」を鑑賞。太鼓や笛の音とともに、田んぼを楽しもう!	
校長あいさつ 13:45～13:55	岩淵成紀 校長 (NPO 法人田んぼ理事長) 「正しい田んぼのススメ」 子どもたちと田んぼの未来へのプロローグ。	
2時間目【社会】 13:55～14:25	伊藤康志 先生 (大崎市長)、高野宏一郎 先生 (佐渡市長) 中貝宗治 先生 (豊岡市長) 「聞かなくてはいけない、マガン・トキ・コウノトリの“世界に一度だけの話”」	
3時間目【ホームルーム】 14:25～14:50	校長と子どもたちによるホームルーム 「未来に伝えたいこと、田んぼのこと」 「発表!!ぼくらが考えた田んぼ宣言」	
休み時間 14:50～15:10	田からモノ(たからもの) 試食 家庭科にも役立つ! 豊かな田んぼのおいしいお米で作ったおにぎりや食べよう。	
4時間目【科学】 15:10～15:30	吉岡明良先生 (東京大学大学院生) 「田んぼでつながる生きものたち」	
5時間目【総合学習】 15:30～16:30	岩淵成紀 校長 「みんなで田んぼと未来(子ども)を考える」 「農業も、お父さんもお母さんも。会場全体で意見交換会。」 「発表!!みんなで考えた、ぼくらの田んぼ宣言」	今日の目標 居眠りしない
終わりの会 16:30～16:40	生徒みんなで! わらわ座「響」先生とフィナーレ! 「森のうた」を歌おう!!	

ところが、大崎市、佐渡市、豊岡市の田んぼでは、近年、大きな変化が見られます。マガンとの共生、トキとの共生、コウノトリとの共生を進める中で、もう一度田んぼが持つ大切な機能に目を向け、人や水のつながりを取り戻し、生きものを増やしながらお米を作る取組みが広がっています。それは、日本で培われてきた「田んぼ」や「里山」の文化を見つめ直し、私たち自身の暮らしのあり方を改めて見つめ直す取組みでもあるのです。

今回、3つの市が力を合わせ、それぞれのまちで育つ子どもたちを集めて、授業形式で田んぼについて考える場をつくりました。その名も『世界一 ためになる学校』。会場は、何と東京大学です!

当日は、夏休み特別オープンスクールとして東京周辺の子どもや大人たちに授業を公開し、合わせて約300人が授業に参加。こんな企画、これまであった!?



●豊岡からは、コウノトリキッズクラブ(※)のメンバー6人が参加。発表のための事前学習会も実施しました。

※コウノトリのことを学び、考え、行動する子どもたちの組織。本年度から活動を開始しています。

2 時間目【社会】



3つの市の市長がまちの取組みを紹介

校長先生あいさつ



校長先生、あいさつ中に突然田んぼの草を食べる!

1 時間目【音楽】



田んぼから生まれた芸能「田楽」を觀賞

4 時間目【科学】



東京大学の現役大学院生から田んぼのお話し

休み時間【田からモノ試食】



3市のお米で作ったおにぎりを食べ比べ

3時間目【ホームルーム】



子どもたちが自身の取組みを発表

そしてもう一度「人間」に戻って、田んぼで自分ができる行動を考えてみた!

田んぼの未来のためにしたいこと ～ぼくらの行動宣言～

生きものがたくさん住める新しい農法をつくる!

農薬をできるだけ使わない田んぼを増やす!

生きものが利用できる土の水路を造る!

田んぼを増やすためにお米をたくさん食べる!

農薬を使わないために、草抜きをする!

生きものが住めるキレイな水にする!

…など

5 時間目【総合学習】



「生きもの」の気持ちになって、田んぼを考えてみた。

ミズカマキリに ぼくの住める川や田んぼや湿地が増えてほしい。

ヘビに もっと食べたいから、田んぼに生きものを増やしてほしい。

オタマジャクシに 水が抜かれると苦しいから、逃げ込める深みを作ってほしい。

コウノトリに 農薬をもっと少なくしてほしい。

害虫に 害虫と決めつけてすぐに殺さずに、食物連鎖の輪に入れてほしい。

…など

マガン、トキ、コウノトリ。それぞれのまちの取組みは違うけれど、田んぼにいる生きものはどこも同じで、地域の人たちが田んぼに込める思いも同じ、抱えている課題も同じだということが分かってきた。そこで、校長先生からの提案、「生きものの気持ちになって、田んぼがどうなってほしいか考えてみよう!」。「次は、もう一度人間に戻って、未来に向けて自分に何ができるかを考えてみよう!」。

子どもたちがつくった「行動宣言」は、1つひとつは小さなものかも知れない。でも、小さな取組みが積み重なれば、大きなうねりを生み出し、未来を変えることもできるはず。会場からの意見も加え、「宣言」は膨らみ続けている。皆さんもその輪に加わり、この宣言を大きく育ててみませんか?

10月に開催する「コウノトリ未来・国際かいぎ」の場で、分科会報告として子どもたちからどんな発表がなされるか… お楽しみに!



▲最後は「森のうた」を合唱。未来に向かってたくさんの木々が伸びました